

公表:令和7年 3月 23日

事業所名 森のいずみ でいクラブⅡ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や 改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえ た改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切であるか	50%	50%		利用人数が多い日は多 少狭さを感じるがある。 。	2階を活用して活動を分け るなど、適宜対応を工夫し ていく。
	②	職員の配置数は適切であるか		25%	75%	今年度は大幅な配置変 更があったこともあり、不 足している。	人員の募集やについて理事 長と交渉を行っていく。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配 慮が適切になされているか			100%	現状、車椅子等に対応出 来ていない。	今後必要な児童が利用す ることになった場合は、玄関に スロープの設置等を検討し ていく。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設 定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		100%			
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を把握 し、業務改善につなげているか	25%	25%	50%	アセスメントを兼ねて、年に 2回程度、保護者への希望 調査アンケートを実施してい る。	アンケートの結果を日々の 業務や活動に反映していけ るよう協議していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホー ムページ等で公開しているか	50%		50%	ホームページに掲載するこ とはできていない。	後日集計結果を保護者に送 る予定。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務 改善につなげているか		75%	25%		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を 確保しているか	25%	75%			
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後 等デイサービス計画を作成しているか		75%	25%	計画作成時に取り組んで はいるが、まだまだ足り ていない。	午前中の時間を使い、保護 者や本人との話し合いの機 会を増やしていく。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化 されたアセスメントツールを使用しているか			100%	現状特に使用できていな い。	メインとなるアセスメントツ ールの導入について、検討し ていく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		50%	50%	長期休みプログラムの立案 は全体で行っているが、 日々の活動については話し 合いが足りていない。	日々の打ち合わせや会議 の中で、活動の立案や準備 についてもっと話し合いをし ていきたい。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している か	50%	50%		制作活動等の個別活動を 中心に新しいものを取り入 れていけるよう工夫してい る。	集団活動についても固定化 しないよう考えていきたい。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細 やかに設定して支援しているか	50%	50%			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を 作成しているか	50%	50%			
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その 日行われる支援の内容や役割分担について確 認しているか	25%	75%		送迎や人員配置についての 確認は行っているが、細か い分担は流動的になってい ることが多い。	打ち合わせの際、取組み たい活動やその担当につい て話し合う機会を作ってい く。

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	25%	75%		重要な情報は可能な限りその日のうちに行っているが、就業時間の関係上、全員で行うことは難しい。	当日共有が難しい場合は、翌日の打ち合わせの時間に伝えていけるようにしていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%				
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	25%	75%		年2回の計画作成時には取り組んでいるが、それ以外はできていない。	様子に大きく変化があった児童がいれば、モニタリングを適宜行っていけるよう検討していく。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	25%	75%			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	50%	50%		児発管のみが参加している状況となっている。	今後は児童によって担当を分けることも検討していく。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	75%	25%		適宜学校に確認や連絡を行っている。	情報に抜けが無いよう、日々ダブルチェックを行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		25%	75%	※現状医療的ケアが必要な児童がいない	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	25%	75%			
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			100%	※まだ学校を卒業した児童がいない。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		50%	50%		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	50%	50%		児童センターにおでかけする機会が以前より増えており、地域の子と遊ぶ場面があった。	今後も活動の一環として児童センターや公園へのおでかけを行っていききたい。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		25%	75%	現状参加する機会がない。	情報収集を行い、参加する機会がないか検討していく。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	50%	50%		申し送りの際や面談の際に情報共有を行っている。	普段会うことが難しい保護者との情報共有に更に力を入れていきたい。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		50%	50%		

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	25%	75%			
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	25%	75%			
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			100%	計画、実施ができてない。	感染症等が流行しない時期を選び、企画を行っていきたい。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		100%		※今の所、大きな苦情がない。	
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	50%	50%		通信の発行が難しい月がしばしばあった。他、LINEを活用して情報の発信を行っている。	HUGの機能を活用するなどして、日々の様子の写真をお見せする機会などを増やしていきたい。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	25%	75%			
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	25%	75%			
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	25%	75%		地域開放型のイベントとして販売会、バザーを実施した。	好評だったため、来年度も取り組んでいきたい。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		50%	50%		
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		50%	50%		
	④⑰	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	25%	75%			
	④⑱	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	50%	50%			
	④⑲	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		50%	50%	医師の指示書を入手できていない。	食事の提供の際、事前に保護者からいただいた状況を元に留意している。必要に応じて医師の指示書を入手したい。
	④⑳	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	50%	50%		作成されているが、共有が甘い部分がある。	回覧等で共有するシステムを整えていく。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。